

令和7年11月から令和8年3月に係る事業報告

I. 企画展

1. 総合文化芸術センター

(1) 木之下 晃 音楽写真展

- 会 期： 令和8年1月14日(水)～19日(月)
会 場： ひらしん美術ギャラリー全室
目 的： 舞台芸術をテーマにした写真を撮影してきたプロの写真家・木之下晃の作品を展示し、市民に芸術性の高い作品鑑賞の機会を提供するとともに、鑑賞事業への関心を高め、施設に足を運んでいただく機会を創出した。
- 展示点数： 107 点
観覧料： 無料
来場者数： 526 人
主 催： 枚方市総合文化芸術センター指定管理者 アートシティひらかた共同事業体



非公開

(2) 第43回北河内ブロック高等学校美術・工芸展

- 会 期： 令和8年2月11日(水)～16日(月)
会 場： ひらしん美術ギャラリー2・3
目 的： 枚方市が北河内の核となって地域の文化芸術を支える環境づくりに寄与し、本市地域の文化芸術の発展とともに、他の地域からも若い活力を呼び込むことによって、まちづくりへの貢献することを目的に開催。
- 参加校： 15校（守口東高等学校、芦間高等学校、枚方高等学校、枚方津田高等学校、枚方なぎさ高等学校、牧野高等学校、枚方支援学校、北かわち阜が丘高等学校、寝屋川高等学校、野崎高等学校、緑風冠高等学校、門真西高等学校、門真なみはや高等学校、四條畷高等学校、交野高等学校）
- 展示点数： 207 点
観覧料： 無料
来場者数： 847 人（参考：昨年 873 人）
主 催： 北河内ブロック高等学校美術・工芸教育研究会
枚方市総合文化芸術センター指定管理者 アートシティひらかた共同事業体
共 催： 大阪府高等学校美術・工芸教育研究会
協 力： 枚方市
後 援： 大阪府高等学校芸術文化連盟



(3) 枚方の美術家展 vol. 5

- 会 期： 令和8年3月11日（水）～3月16日（月）
会 場： ひらしん美術ギャラリー全室
目 的： 市民に本格的な芸術に触れる機会を提供し、美術に対する関心と理解を広げるとともに、市民の美術活動の活性化を目的に、市内在住の美術家 57 名による平面、立体作品を展示。
展示点数： 57 点
観覧料： 無料
来場者数： 開催中につき未算出（参考：昨年 1,036 人）
主 催： 枚方市総合文化芸術センター指定管理者 アートシティひらかた共同事業体
共 催： 枚方市



【関連イベント】

- 交流会： 日時 令和8年3月13日（金）18時30分～19時30分
目的 市内美術家、行政の相互交流・情報交換を図る機会として開催
内容 市長あいさつ、出展者自己紹介、歓談
出席者 出展者 30 人（予定）、市長、観光にぎわい部次長

2. 御殿山生涯学習美術センター

(1) アトリエ美術館 Vol. 29 「副産物産店の御殿山大阪美術学校 ～終末の教室～」展

- 会 期： 令和8年1月4日（日）～2月23日（月・祝）
会 場： 1階ギャラリースペース
目 的： 「アトリエ美術館」は、大阪美術学校の跡地に建設された御殿山生涯学習美術センターの稀有な歴史的文脈を活かし、参加者が作家とともに「つくること」を通してその造形思想に触れ、相互交流する場を創出する企画展。アーティストの支援・発掘・育成の他、市民の芸術活動の活性化を目的としてきた。
今回は、アートユニット 副産物産店を招聘し、新たな学びと表現のかたちを探る。「ものが終わる」とはどういうことか、そこから何をはじめることができるのかを、訪れる人と共に見つめ直す機会とする。
内 容： 展覧会、関連イベント（地域連携による芸術資源循環プロジェクト、レクチャー&ワークショップ等のプログラム、アーティストトーク）、「美術の教科書」をコンセプトにした記録集を令和8年3月末に発行予定。

展覧会

1Fギャラリースペースにセンター利用者の創作活動で出た廃材や不要品の持ち込み・持ち帰りの“循環”を可能にするインスタレーション作品「御殿山芸術資源循環センター」を設置。会期終了後も規模を縮小した芸術資源循環センターを設置し、次年度以降も地域独自の循環型社会実現のプロジェクトとして根付かせていく。
展示ガラスケースには、関連イベントのワークショップで制作した参加者の作品を展示。ガラスケース前に副産物産店による廃材を使ったオブジェを展示した。



更に、産業廃棄物倉庫を「架空の美術学校」として展開。会場には、モニター4台を設置し、関連イベントのレクチャーやワークショップの動画を視聴可能にした。併せて、大阪美術学校の歴史を辿るパネル展示や写真、御殿山美術センター設立当時の竣工模型、副産物産店の選書による関連本を展示。



作家： 副産物産店（ふくさんぶっさんてん）

矢津吉隆と山田毅によるアートユニット。アーティストのアトリエから出る魅力的な廃材を“副産物”と呼び、回収、販売する資材循環プロジェクト。ものの価値や可能性について改めて考える機会をつくる試み。主な展覧会に「アブソリュート・チェアーズ 現代美術のなかの椅子なるもの」埼玉県立近代美術館・愛知県美術館（2024）など。

略歴： ●矢津 吉隆（やづ よしたか）

美術家、kumagusuku 代表。1980 年 大阪生まれ。京都市立芸術大学美術科彫刻専攻卒業。京都芸術大学美術工芸学科専任講師。ウルトラファクトリープロジェクトアーティスト。京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員研究員。京都アートラウンジディレクター。

●山田 毅（やまだ つよし）

美術家、只本屋 代表。1981 年 東京生まれ。2025 年 京都市立芸術大学大学院博士後期課程修了。京都市立芸術大学、京都芸術大学、京都精華大学非常勤講師。ウルトラファクトリープロジェクトアーティスト。京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員研究員。

観覧料： 無料

来場者数： 延べ 5,949 人（会場出入口カウンター集計。集計方法は、カウント数値÷3.5 で算出）

主催： 御殿山生涯学習美術センター 指定管理者 枚方まなびつながりプロジェクト

協力： 御殿山渚商店会

【関連イベント】

芸術資源循環： ①芸術資源循環「街中アート」（地域連携の推進）

平成 24 年度より御殿山渚商店会と連携してアートを通じた地域活性化を目指す事業「街中アート」を実施している。今回は、御殿山渚商店会 12 店舗にて副産物産店の作品を展示、内 3 店舗に資源循環ポストを設置した。

不要となった素材（資源）を自由に持ち込み・持ち帰りができるポストを活用し、地域内で資源循環のためのネットワーク構築を試みた。また、回収された様々な素材は、本展でも再利用されインスタレーション作品「御殿山芸術資源循環センター」へと蘇った。



ワークショップ： ②レクチャー&ワークショップ 特別授業「終末の教室」全 6 回

展覧会に先駆けた関連イベントとして特別授業「終末の教室」を開校。本企画は、美術教育の「始まり」と「終わり」を刻んだ大阪美術学校の歴史的文脈と関連させ、普段はセンターの産業廃棄物の保管場所として使用されている地下室を、期間限定の「架空の美術学校」として開いていく試み。

副産物産店は、この地下空間を終末的な雰囲気をつけた「教室」に仕立てあげ、全 6 回の授業プログラムを展開した。各授業では、図工・教育・社会・総合といった科目を設定し、参加者とともに様々な角度から「終末」や「循環」という概念と向き合った。役目を終えた素材との対話から生まれる造形や、終わることの意味を考える講座など、参加者それぞれが「創造」と向き合う場となり、最終日は文化祭を開催。副産物産店や協力作家によるワークショップ等を実施した。

令和 7 年 9 月 28 日（日） 13：00～15：00 図工のじかん	『アートの副産物で循環箱をつくろう』 参加者数 5 人
令和 7 年 10 月 18 日（土） 13：00～15：00 総合のじかん	『循環と芸術 ～ものの終わり～』 参加者数 5 人
令和 7 年 11 月 29 日（土） 13：00～15：00 教育のじかん	『近代芸術教育学概論』 参加者数 3 人
令和 7 年 12 月 21 日（日） 13：00～15：00 美術のじかん	『Balance and Fixation-彫刻のための協働行為、あるいは協働のための彫刻行為』 参加者数 8 人
令和 8 年 1 月 24 日（土） 13：00～15：00 社会のじかん	『終末世界概論』 参加者数 10 人
※上記 5 つの授業は、各日定員 10 人（中学生以上、事前申込制）参加費無料	
令和 8 年 2 月 15 日（日） 13：00～17：00 文化のじかん	『御殿山大阪美術学校～終末の文化祭～』 〈出店プログラム〉 ・工作コーナー「アートの副産物でオブジェをつくろう」 副産物産店によるワークショップ。様々な副産物を使って、参加者が 2 人一組でオブジェづくりに挑戦した。

	・循環バザー「不用品の持ち込み&お持ち帰り」 ・ZINE(ジン)の紹介コーナー 本企画展の記録撮影を担当した写真家 佐藤真優が手掛ける小冊子（ZINE）の紹介 ・つち場「土の副産物であそんでみよう」 土あそび場（御殿山で採掘したオリジナル粘土の体験コーナー）、かけらやさん（野焼きなどで生じた破片を再利用）の2コーナーを設置。講師はアーティストの戸矢万葉。 参加費無料/申込不要 来場者数 延べ234人（会場出入口カウンター集計。集計方法は、カウント数値÷3.5で算出）
--	--

非公開	非公開	非公開	非公開
図工のじかん	教育のじかん	文化のじかん	文化のじかん

アーティストトーク： ③アーティストトーク

当センター美術アドバイザーの遠藤水城を聞き手に、副産物産店による作品解説を実施。
令和8年2月23日（月・祝）14：00～15：30
参加費無料/申込不要。参加者数：9人

略歴： **遠藤 水城（えんどう みずき）**
1975年札幌生まれ。京都市在住。キュレーター。

Ⅱ. 公募展

1. 総合文化芸術センター

(1) 第5回枚方市展（枚方市公募選抜美術工芸展）

- 会 期： 令和7年12月17日(水)～22日(月)
- 会 場： 枚方市総合文化芸術センター本館（ひらしん美術ギャラリー、ひらしんイベントホール）
- 目 的： 将来の文化芸術を担う人材の育成や美術文化の一層の発展と、美術作品の展示により芸術鑑賞の機会を提供し、市民の文化活動の活性化を図ることを目的として、広く作品を公募し、審査員による審査を通過した入賞・入選作品を展示。
- 対 象： 令和7年4月1日時点で満15歳以上の方
- 展示点数： 170点(うち入賞作品27点) 参考：昨年163点(うち入賞作品26点)
- 観覧料： 無料
- 来場者数： 3,447人（美術ギャラリー、イベントホール入場者合計）（参考：昨年3,294人）
- 主 催： 枚方市総合文化芸術センター指定管理者 アートシティひらかた共同事業体
- 共 催： 枚方市

第5回枚方市展応募者数・入選者数

	日本画	洋画・版画	書	彫塑・立体	工芸	写真	合計
応募点数	11	123	24	17	33	88	296
入選	8	70	14	12	20	46	170
入賞	3	5	4	5	5	5	27
入選・入選率	72.7%	56.9%	58.3%	70.6%	60.6%	52.3%	57.4%



表彰式： 令和7年12月20日（土）14:00～/関西医大小ホールにて開催

非公開

非公開

非公開

2. 御殿山生涯学習美術センター

(1) アートフラッシュ

目 的： 次代をにやう美術家を数多く輩出した大阪美術学校の伝統を受け継ぎ、開館当初から新しい芸術を切り拓く若手・新鋭アーティストを応援する企画展として開催。

アーティストに発表の機会を提供し、芸術家の芽を育てるとともに市民の方々に様々な美術や造形を楽しんでいただくことを目的とする。

内 容： 1階ギャラリースペースの展示ガラスケースを活用し、枚方市や京阪・学研都市沿線を中心に活動を行う若手アーティストに発表の機会を提供。募集を募り、約2週間の会期で展覧会を開催。

観覧料： 無料

主 催： 御殿山生涯学習美術センター 指定管理者 枚方まなびつながりプロジェクト

vol. 125 Gento「Near」展

会 期： 令和8年3月14日(土)～3月29日(日)

会 場： 1階ギャラリースペース(展示ガラスケース)

作 家： Gento (гент) 本名: 中尾 元登(なかお げんと)

略 歴： 2001年生まれ。大阪府交野市在住。2023年バンタンデザイン研究所グラフィックデザイン科卒業。2025年個展(東京/多世界事務所Ⅱ、大阪/Calo Gallery)、グループ展(京都市京セラ美術館)。2024年 UNKNOWN ASIA 川添孝信賞、前出明弘賞 受賞。2023年 GEISAI#22 エースホテル賞 受賞。

内 容： 日常に潜む些細な出来事や感情を深く観察し、そこから感じ取った芯となる部分を色鉛筆で表現した作品。

色鉛筆画： 約20点(水彩色鉛筆・ケント紙)

非公開

(2) ギャラリー個展

目 的： 展示ガラスケースの活用の一環として、利用者や一般市民の個展開催のニーズに応え、創作への意欲を促進することを目的に無償で貸し出しする。

対 象： センター利用者、一般市民、枚方にゆかりのある人

観覧料： 無料

第25回 宇野千秋展 洋画19点 陶芸12点

会 期： 令和7年12月2日(火)～12月14日(日)



(3) 利用団体へのロビー展示の貸出

目 的： センター利用者に創作意欲の向上や、利用者間の交流・活性化を促進する目的としている。

内 容： 1階ロビー壁面及び可動式壁面を展示スペースとして提供し、ロビー壁面に作品を展示する。貸出団体の募集は通年実施している。

対 象： 御殿山生涯学習美術センターを継続して利用する美術創作団体であり、1団体につき、最大2週間を限度として貸出する。

展示期間： ①令和7年12月2日～12月14日 展示団体：パンチュール 絵画 20点



②令和8年3月16日～3月29日 展示団体：NY&LA 油絵 15点

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
利用数(団体数)	11	14	17	10	5	6	6	6	4	6

Ⅲ. 講座

1. 御殿山生涯学習美術センター

(1) 実技講座 OPEN ATELIER「ほって、つくって、たべる。」

日 時： 令和7年9月～令和8年1月 全4回連続講座

目 的： 創作活動の普及や新規利用者の獲得を見据え、御殿山生涯学習美術センターでの創作活動が更に充実化する多彩なテーマを設定。学びの動機付けや創作室の利用促進を目的とする。

内 容： 「ほって・つくって・たべる」は、土という素材を通して、感覚と知性を結び直す体験型の創造活動。土を「掘る」ことで土地の記憶に触れ、「つくる」ことで思考を形にし、「たべる」ことで新たな価値として自らに取り込む試み。土は造形素材であると同時に焼成することで1万年以上にわたり情報を記録できるメディアでもある。デジタルデータが短命な現代において、土に触れ、こね、踏み、投げるといった身体的な行為は、感覚を刺激し思考の柔軟性を取り戻す重要な体験の場となった。

本活動では、地域の人々とともに土を耕し、記憶や表現を共有することで、文化的な土壌を醸成し、参加者は「採掘者」として自身の内なる記憶を掘り起こし、形にし、それを他者と交わすことで知を育む。単なるワークショップを超えた、土と知をめぐる交流の場となった。

1. ほる 9月20日(土) 10:00～12:00	土の採取を行い、素材の特性を観察。
2. ふむとねる 10月18日(土) 13:00～16:00	※協力 作品合同展実行委員会（公開ワークショッププログラム） 道具を使わない昔ながらの方法で土を踏み、練る作業を体験
3. つくる 12月13日(土) 13:00～16:00	寝かせた粘土をこね、形を作るプロセスを実践。
4. やく 1月17日(土) 10:00～17:00	薪を使って土と食べ物を焼く。縄文時代の焼成技法を参考にし、野焼きを実施。 最終日には、滋賀県立陶芸の森 勝冶真美を招聘し、土と人を巡る文化に関してより深い学びと気づきの場を提供した。ゲスト、作家、参加者や地域の人々と双方向のコミュニケーションを育むミートアップを実施した。

非公開

非公開



1.ほる

2.ふむとねる

3.つくる

4.やく

講師：戸矢 万葉（とや まは）

略歴：1991年生まれ。2017年京都市立芸術大学院美術研究科陶磁器専攻修士課程修了。近年の活動は個展「溶ける視点」(FINCH ARTS, 京都, 2022)、「国立台南芸術大学 アーティスト・イン・レジデンス（台湾・台南, 2024）」、「Two」(Chin Chin gallery, 台湾・台南, 2024)、「溶解のパラダイム」(THETHOUSAND KYOTO, 京都, 2024)個展、「龍泉アーティスト・イン・レジデンス」（中国, 龍泉, 2025）など。

講師：勝治 真美（かつや まみ）

略歴：1982年広島市生まれ。広島市立大学国際学部卒業。フリーランスのアートコーディネーターとして国際芸術祭あいち2022など様々な芸術祭やプロジェクトに関わる。現在は、滋賀県立陶芸の森でアーティスト・イン・レジデンス事業を担当。

参加費：5,000 円（材料費込み）

定員：15 人（応募者数：16 人）

参加者数：15 人

（2）美術関連事業（その他） OPEN ATELIER 「One day 陶芸体験」

日時：令和7年8月～令和8年3月 毎週土曜日（全32回）

目的：文化芸術活動の普及と新規利用者の獲得を目的に、御殿山生涯学習美術センターにおいて、初心者でも気軽に取り組める創作活動の機会を提供することで、学びの動機付けと創作室の個人利用促進を図る。

内容：材料や道具の持ち込みが不要で、誰でも気軽に参加できる「One day 陶芸体験」キットを用いた創作プログラム。陶芸専用の創作室「創作室4」を活用し、毎週土曜日に開催。また、本企画には陶芸分野において国内外で活躍するアーティスト・教育者である戸矢万葉（とや まは）をアドバイザーとして迎える。専門性と現場感覚を備えたアドバイスにより、参加者の創作体験の質を高め、より魅力的な事業展開を目指した。



参加費：1,500 円（材料費・資料代）

定員：各日先着10人（事前申込不可、当日窓口で受付）

参加者数：18人（3月2日時点）

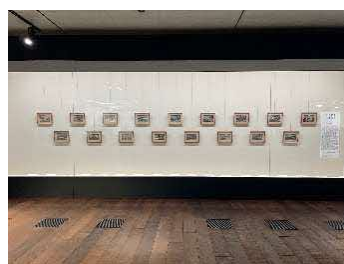
備考：本事業は、「One day 陶芸体験」キットと御殿山で採掘した土から精製した粘土（御殿山ブレンド土）を用いた初心者向けの創作プログラムであり、参加者が手ぶらで気軽に陶芸を体験できる内容となっている。なお、本プログラムは自主創作形式で実施されるため、アドバイザーは常時在室していない。技術的な指導を希望される場合は、別途講座やイベント等への参加をご案内した。

IV. 市所蔵作品の展示

展示期間：	①令和7年11月19日(水)～12月25日(木)	水田博幸の貝工芸の世界(後期)
	②令和8年1月5日(月)～1月26日(月)	枚方市展市長賞受賞作品
	③令和8年1月28日(水)～3月30日(月)	「著名美術作家」大集合！

目 的： 市民が芸術に触れる機会を広く提供するとともに、市所蔵美術作品等の有効活用を目的とする。

展示作品： ①令和7年11月19日(水)～12月25日(木)水田博幸の貝工芸の世界(後期)
 <市所蔵作品展示スペース>
 「日本橋」、「朝之景色」、「神奈川台之景」、「藤沢」、「遊行寺」、「小田原」「酒匂川」、「沼津」「黄昏図」「原」、「朝之富士」、「掛川」、「秋葉山遠望」「浜松」「冬枯図」、「白須賀」「汐見阪」、「赤坂」、「旅舎招婦図」、「岡崎」、「矢矧之橋」、「四日市 三重川」、「亀山」、「雪晴」、「関」、「本陣早立」、「水口」、「名物干瓢」、「京師 三条大橋」、「大坂 京橋」



②令和8年1月5日(月)～1月26日(月)枚方市展市長賞受賞作品
 <市所蔵作品展示スペース>

日本画 菱田 アンジュ「祝福の刻」 洋画・版画 越智 陽子「かめ」
 彫塑・立体 石橋 慧海「木陰」 工芸 浜田 裕貴「紡ぐ詩」 写真 滝口 進「使命の人」



③令和8年1月28日(水)～3月30日(月)「著名美術作家」大集合！
 <市所蔵作品展示スペース>

ミシェル・ジラルール「バルターニュの荒野」、藤田嗣治「少女」、
 アドルフ・モンテセリ「三組の恋人たち」、サルバドール・ダリ「花シリーズ」
 ベルナル・ビュフェ「小さな海岸」、ジョルジュ・ルオー「ミセレーレ12」

<立体ケース>

アレキサンダー・アーキペンコ「横たわる形態」、アントワーブ・ブールデル「婦人像(リンゴ取り)」



2. 御殿山生涯学習美術センターロビー展示ケース

展示期間：	①令和7年12月3日(水)～令和8年2月2日(月)	熊倉順吉「伊羅保釉壺」
	②令和8年2月3日(火)～3月30日(月)	作者不詳「古伊賀壺」
目 的：	市民が芸術に触れる機会を広く提供するとともに、市所蔵立体作品の有効活用を目的として実施	
展示作品：	①令和7年12月3日(水)～ 令和8年2月2日(月) 熊倉順吉 「伊羅保釉壺」	②令和8年2月3日(火)～ 3月30日(月) 作者不詳 「古伊賀壺」

非公開

非公開

3. 枚方市役所 市役所別館1階(Art Exhibition)

展示期間：	①令和8年1月5日(月)～1月26日(月)	中井吟香 「吉野山」
	②令和8年1月28日(水)～3月30日(月)	中川一政 「鯛と海老」
目 的：	市所蔵作品の展示	
展示作品：	①令和8年1月5日(月)～ 1月26日(月) 中井吟香 「吉野山」	②令和8年1月28日(水)～ 3月30日(月) 中川一政 「鯛と海老」

非公開

非公開